

# 令和6年度 学校努力点

研究主題

## 自律して学び続ける児童の育成

### I 研究主題設定の理由

令和5年9月に名古屋市教育委員会から「ナゴヤ学びのコンパス」が発出され、教師が児童に伴走しながら、「ゆるやかな協働性の中で自律して学び続ける」なごやっ子の育成を目指すことが示された。

「自律して学ぶ児童」とは、やりたいことを自ら見付け、学習の進度等を振り返りながら学び続ける児童だと考える。

本校では、令和3年度から、「主体的に学ぶ子どもの育成」を目指して、児童が学ぶことに興味や関心をもち、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげるために、「子どもの思いや願いに基づいた課題設定」と「振り返り活動の工夫」に重点を置いて実践を行ってきた。

昨年度までの成果と課題を基に、以下の2点の手立てを重点とし、児童の自律した学びにつながる授業実践に取り組むことをテーマとしていく。初年度の令和6年度は特に、児童が「興味・関心等に応じ、やりたいことを見付けて取り組む」ことができるようにするための授業の工夫に力を入れ、実践に取り組みたい。

#### **手立て① 興味・関心等に応じ、やりたいことを見付けて取り組むための工夫** (本年度の重点)

単元の始めに、余剰教室や教室内の一角に体験・活動コーナーを設置して体験活動を充実させたり、ICTによる学習材を事前に教師が提供して事前学習ができるようにしたり、イメージマップ、フローチャート等を活用して、児童が自分自身で学習課題を設定できるようにしたい。

そうすることで、児童が単元内でどのような点に着目して学習を進めたいかイメージを膨らませたり、難しい内容にもチャレンジしたりして学んでいくことができるようになると思う。

#### **手立て② 学びに見通しをもち、振り返りながら学び続けるための工夫**

児童が学びに見通しをもてるようにするために、単元の始めに、ルーブリック等を活用して、教師と児童が学習計画を一緒に立てることができるようにする。

そして、活動の区切りやまとまりごとに、ポートフォリオ（作品、レポート、学習カード、メモ、収集した資料、活動の様子が分かる写真や動画等）を活用して、学習活動の成果や自分の考え、改善点等を児童自ら見付けられるようにする。その際、ルーブリック等を活用した振り返りの視点を示したり、次の活動につながる学びを教師が価値付けたりしていく。また、児童同士学習状況を共有する場を設けるようにする。児童が互いの学習状況を共有しながら、自律して学習し続ける姿につなげたい。